

スポーツを通したライフスキルの変換についての一考察 A Study of Transformation of Life Skills through Sport

1K09B034-7

指導教員 主査 間野義之 先生

大沢 尚太郎

副査 木村和彦 先生

【研究背景】

いま日本はかつてない危機に直面している。昨年東日本を襲った東日本大震災を引き金に原発問題、国家の安全保障や韓国、中国との領土問題、TPP や円高不況、国内企業の業績不振、さらには慢性的な雇用の問題など、数多くの問題を抱えている。特に政治の面では以前からリーダーシップの欠如が課題となっている。2012 年 12 月 16 日の衆議院総選挙では自民公明両党の圧倒的勝利に終わったが、過去最低の投票率となった。日本では、ここ 6 年で 7 人目の首相が誕生している。そして首相が変わるたびに、「今度の首相は一年持つかどうか」と、期待を寄せることが困難な状況である。誰に投票しても変わらないという思いが、投票率に顕著に現れている。だからこそ、日本において、政治家のリーダーシップの欠如は非常に重要な課題であるといえる。

しかしながらリーダーシップの欠如は政治家だけに留まる問題ではない。日本は、リーダーマインドを有する人材が不足しているという指摘がある。一方、日本は、世界においても、リーダーシップを果たすことが期待される国である。よって、本論文では、日本におけるリーダーマインドを有する人材の不足は、危機的状況であり、リーダーマインドを有する人材の育成が急務であるということが課題であると考ええる。

【研究目的】

本論文においては、スポーツがリーダーマインドの育成において大きな役割をもつと考える。なぜなら、現在われわれが行っているイギリス発祥の近代スポーツは、リーダーシップの養成のために用いられてきたからである。しかしながら、現在の日本において、2009 年に内閣府が行った体力・スポーツに関する世論調査によると、スポーツを行う目的は「健康・体力づくりのため」「楽しみ、気晴らしとして」としたものが多く、スポーツを通して自己を鍛練し、成長させるために行っている人は極端に少ない。そこで、本論文では、本来のスポーツの目的を見つめ直し、リーダーマインドの育成のための、スポーツの効果的なあり方について考察する。

スポーツを通してリーダーマインドを学ぶことに関しては、スポーツにおけるライフスキルの習得に関する研究が展開されてきた。杉山（2004）は、スポーツには「私たちが日常生活をよりよく過ごすための資源を提供するという機能があり」、「日常場面で遭遇するさまざまな問題に対処する能力をもたらし」と指摘し、スポーツによるライフスキル獲得を示唆する。本論文においては、杉山の研究において、ス

ポーツで得た心理社会的スキルをいかに日常生活においても発揮されうるライフスキルに変換することができるかという部分にスポーツの教育的な価値がかかっていると考える。しかしながら、我が国のスポーツにおいては、心理社会的スキルをライフスキルへ変換するための過程が欠如しているのではないだろうか。そのため、スポーツを通して取得された心理社会的スキルが、単に、スポーツの場面でのスキルに留まり、社会のなかで生かされるべきライフスキルとして習得されていない。したがって、ライフスキルを獲得するための過程を考慮した、スポーツの実施が重要である。

しかしながら、ライフスキル獲得の研究において、社会心理的スキルからライフスキルへの変換のプロセスは明確にされていない。そのため、本論文では、心理社会的スキルをライフスキルへ変換するプロセスを明示することを目的とする。

【研究方法】

社会心理的スキルからライフスキルへの変換のプロセスにおいて、指導者による介入、環境の設計がキーフaktor であるという仮説のもと、インタビューによる定性調査を行った。

インタビューの対象は東京都調布市に所在するスポーツ NPO「S クラブ」の運営者 2 名、会員 2 名に個別にインフォーマル・インタビューを実施し、仮説の検証を行った。

【結果】

インタビュー調査の結果より、スポーツの実施において、心理社会的スキルをライフスキルへ変換することを意識的に行うこと、意識的に行うことができる環境の設定を行うことが、スポーツを通したライフスキルの獲得に効果的であることが検証された。

【考察】

日本のリーダーマインド育成のためには、スポーツによって得られる心理社会的スキルをライフスキルへと変換することを意識した、スポーツの実施が必要である。